

信頼関係築き 親子の関係修復

グループホームの365日

認知症と
ともに生きる

164

Gakken Group

MCS メディカル・ケア・サービス

ながら訴え、古賀さんもその隣で暗い表情で小さくなっていました。高志さんは、入居時の立会いをしないくらいに追い詰められ、後で荷物を届けるだけで、古賀さんと一言も話すことなく帰っていききました。

入居時の古賀さんはほとんど話さず、介護拒否も強い状態でした。高志さんは「昔はよく話をしていたのに、自分が怒るから話さなくなったのかな」と言っていました。そのため古賀さん

が笑って過ごし、高志さんと以前のように会話ができるようになってもらいたいと考えました。古賀さんのことを知り、会話の糸口を見つげるために声掛けを多くし、一緒にできる活動を

を確認していききました。

本好きなので、本の話を振ると会話が広がるのが分かりました。体操やレクリエーションなど集団で行うことは好みませ

んが、個別に声を掛けると一緒にお盆拭きをしてくれるようになりました。表情は少しずつ柔和になり、会話が増えていききました。そのような変化を高志さんに伝えると、面会時に古賀さんと顔を合わせ、軽い会話をするようになっていきました。最近では1週間に1度程度は面会に訪れ、長い時間、古賀さんの部屋で過ごすようになってい

ます。相手のことや気持ちを知らないと興味を持つことで会話が広がっていきます。会話が増えることでなじみの関係もでき、安心感や信頼感が増していきま

す。「愛の家グループホーム岐阜」では、利用者はもちろん家族にも安心してもらいたいと考えています。利用者、家族、職員が笑顔で過ごせるような事業所を目指します。

「愛の家グループホーム岐阜」

(岐阜市)

ホーム長・木戸口勢津子

古賀正志さん(仮名)は認知症の症状により1人暮らしが難しくなり、次男の高志さん(仮名)が身の回りの世話を引き受けました。古賀さんが、買うものがなくてもスーパーへ通って不審に思われ、警察から高志さんへ毎日のように電話がかかってきていました。入居前、高志さんは「もう本当に大変でどうしていいかわからない」と怒り



「愛の家グループホーム岐阜」を訪れた生徒に手を振る古賀正志さん



います。電子版を読むには「岐阜新聞Web」への会員登録が必要です。会員登録のページへは掲載の2次元コードから入ることができます。

「認知症とともに生きる グループホームの365日」は、月曜日に本紙くらし面で、火曜日、水曜日に電子版で毎日連載しています。